

JX金属グループ 2023～2025年度中期経営計画

説明資料

2023年5月11日

 JX金属株式会社



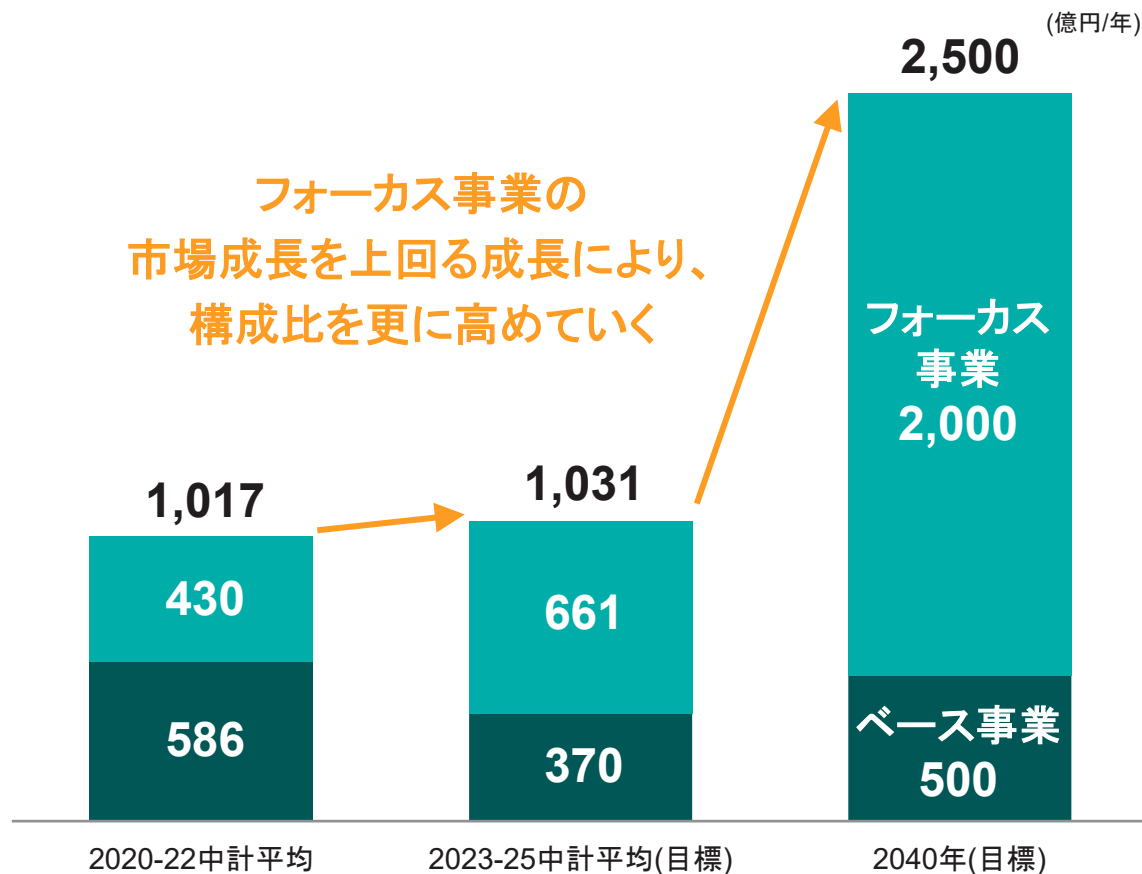
目次

- 1 長期ビジョンで目指す事業構造イメージ
- 2 2020～2022年度中期経営計画（“前期中計”）振り返り
- 3 2023～2025年度中期経営計画（“今期中計”）について
 - 位置付け
 - 環境認識
 - 基本方針
 - 事業・技術戦略
 - ESG活動
 - 投資戦略
 - 収支計画
- 4 業績について

1. 長期ビジョンで目指す事業構造イメージ

高収益・高成長のフォーカス事業が全社成長を牽引、**グローバル水準の収益性及び資本効率を目指す**

《 2040年における営業利益成長イメージ 》



注) 共通費は両事業の営業利益額比率で配分

フォーカス事業

- 先端素材の供給と、複数の領域において生み出す新規事業により、グローバルニッチトップに挑み続ける

半導体材料

- 市場や顧客要求の変化をとらえた拡販
- 半導体産業内の隣接する新分野へ事業を拡大

情報通信材料

- 既存デバイスの高機能化要求に対応
- スマホに続く新たなデバイスに差別化製品を提供

半導体用ターゲット、圧延銅箔に次ぐ第三の柱を確立し、成長を加速

銅・レアメタルの原料供給／経営リソースの提供

ベース事業

基礎材料

- フォーカス事業に必要な原料を安定供給
- ESG課題に応える資源調達・製錬プロセスを確立

1 長期ビジョンで目指す事業構造イメージ

2 2020～2022年度中期経営計画（“前期中計”）振り返り

3 2023～2025年度中期経営計画（“今期中計”）について

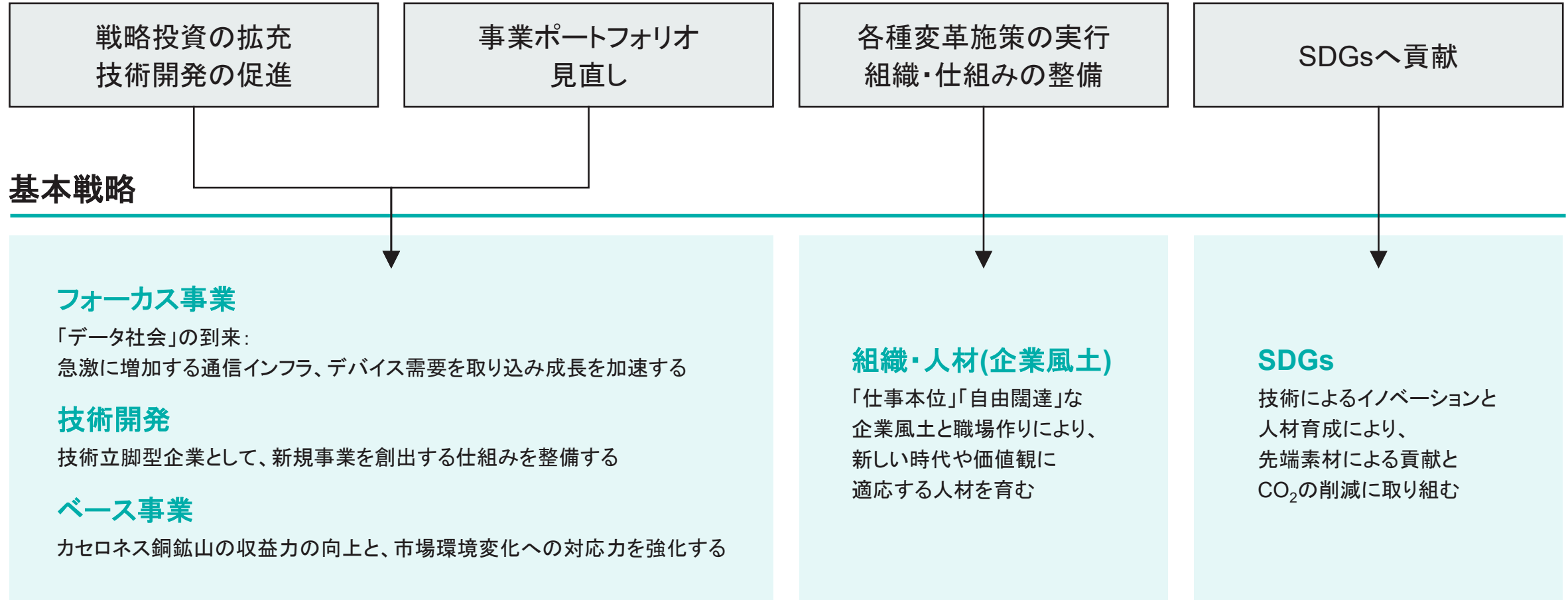
- 位置付け
- 環境認識
- 基本方針
- 事業・技術戦略
- ESG活動
- 投資戦略
- 収支計画

4 業績について

2. 前回中計 基本方針

基本方針

「自律性」「機動性」「独立性」を高めた事業運営により、「長期ビジョンの実現」「技術立脚型企业への転身」への種まきを進める



2. 前期中計 実行施策

戦略投資の拡充、技術開発の促進

事業ポートフォリオの見直し

各種変革施策の実行・SDGsへ貢献

フォーカス事業

市場需要を取り込む能力増強投資の実行
ひたちなか新工場プロジェクト推進等によるフォーカス事業を中心とした事業ポートフォリオ変革の種まき

技術立脚・ESG等

成長を加速させる第三の柱確立に向けた体制構築
当社ESG経営の基盤となるサステナブルカップパープロジェクトの公表・推進

ベース事業

資産ポートフォリオ見直しにより収益安定性を向上
収益変動リスクを低減することで、フォーカス事業を主力とする戦略を着実に実行できる体制に

本社移転（機動的な事業運営とそれを担う付加価値創出型人材の育成）

2020年度

半導体ターゲット 能力増強投資

ノベルクリスタルテクノロジーとの協業

JX金属戦略技研 設立

銅事業再編（製錬体制変更）

スクラップ処理能力増強投資

2021年度

圧延銅箔 能力増強投資

結晶材/電池・リサイクル 推進室設置

Liリサイクル国内/独 子会社設立

産総研冠ラボ 設立

P.T.Smelting 売却

2022年度

サステナブルカップパープロジェクト 推進

ひたちなか新工場プロジェクト 推進

北米新工場プロジェクト 推進

タツタ電線 TOB予告発表

（Mibra鉱山 出資）

丸運 株式取得

NanoWired 出資

JX金属製錬Copper Mark 取得

eCycle 買収

LS Nikko 売却

Mibra鉱山 出資

カセロネス 権益一部譲渡

1 長期ビジョンで目指す事業構造イメージ

2 2020～2022年度中期経営計画（“前期中計”）振り返り

3 2023～2025年度中期経営計画（“今期中計”）について

- 位置付け
- 環境認識
- 基本方針
- 事業・技術戦略
- ESG活動
- 投資戦略
- 収支計画

4 業績について

3. 今回中計 位置付け



株式価値
最大化に向けた
取り組み

- 戦略投資の拡充
技術開発の促進
- 事業ポートフォリオの
見直し
- 変革施策の実行
組織・仕組み整備

ESG関連への
取り組み

SDGs実現に向けた事業運営

成長戦略の確実な実行

- フォーカス事業** | 市場の成長を捕捉する
戦略投資の着実な実行
- 技術開発** | 半導体用ターゲット・圧延
銅箔に次ぐ第三の柱の創出
- ベース事業** | 資本効率を重視した
事業体制の抜本的見直し
- コーポレート** | 財務基盤の強靱化

サステナブル・カッパービジョンの具現化

半導体材料／
情報通信材料の
グローバルリーダー
として持続可能な
社会の実現に貢献

3. 今回中計 環境認識(フォーカス事業)

2023年後半には調整期からの需要回復が見込まれ、データセンターや通信、モビリティ(EV・ADAS)、再生エネルギー関連が牽引し、中長期的には高い成長が期待される

《 半導体市場の見通し(推定) 》

- 2023年下期から回復局面(2022-25 CAGR:5.6%)
- 2023、24年に半導体各社の新設工場が稼働開始、供給能力拡大



Source :TechInsights Manufacturing Analysis Inc.

スマートフォン

- 現在の5Gスマホは限界的な性能向上に留まり、マクロ景気が悪化する中では市場拡大や買い替えに繋がっていない
- 但し、4Gからの買い替え需要は蓄積されており、2024、25年には景気回復に合わせて顕在化

PC・サーバー

- PCはコロナ期の在宅ブームの反動で2023年まで弱いが、2025年にはWindows10のサポート終了で買い替え需要増
- サーバーはクラウド大手の業績踊り場で一時伸び悩む可能性あるが、デジタル化の拡大を背景に成長基調

自動車

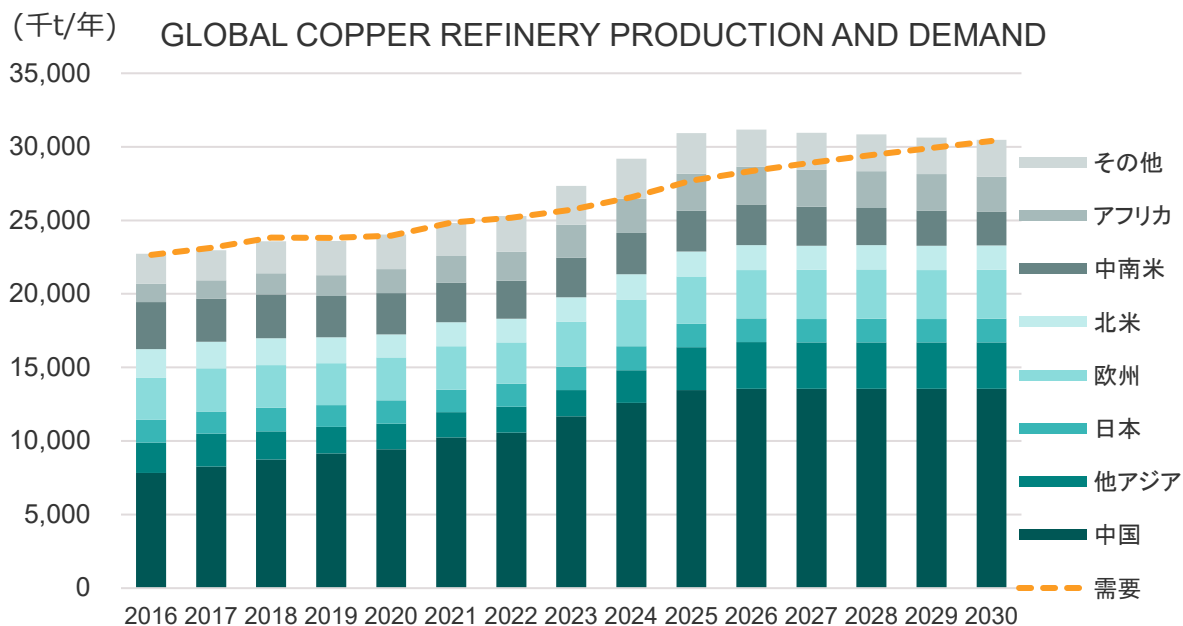
- 2023年には半導体不足が解消し生産が正常化するが、インフレや金利高が頭を抑え、本格回復は2024年から
- EV化の流れは継続、2025年にはEVのコストがエンジン車に並ぶ

3. 今回中計 環境認識(ベース事業)

アジア製錬所新設、E-Wasteの越境移動制限による原料調達環境の悪化に加え、銅価高を受けた製錬側での運転資本の増加が負担に

《 電気銅需要・生産見通し(推定) 》

- 脱炭素化の流れを受け需要は伸長(2022-25 CAGR:3.2%)
- 需要の伸びを上回る勢いでアジア供給能力が拡大(同CAGR:9.9%)



Source : Wood Mackenzie "Global copper strategic planning outlook Q1 2023"

資源

- チリのロイヤリティ法案審議に代表される資源ナショナリズムや保護主義が台頭
- エネルギー価格高騰や環境対応コストの上昇を受け、鉱山の採掘コストは上昇

製錬

- 銅価は堅調な銅需要に支えられるものの、世界経済の不透明や供給能力増大が押し下げ圧力となり、足元に比べ低位で推移するものと想定(※1)
- アジア製錬の新設による精鉱需給のタイト化を受け、製錬マージンは低位にて推移、アジアを中心に銅地金の販売競争は激化

リサイクル

- E-Wasteの適正処理、再資源化トレンドに従いE-Scrap回収量は増加も、リサイクル原料由来製品の需要が急増し、集荷競争が激化
- 途上国への不正輸出対策を理由とした関連条約の改正により、E-Wasteの越境移動が制限される可能性大

(※1) 前提銅価(¢/lb)2023 - 25年 360

3. 今回中計 基本方針

フォーカス事業の成長を加速化させる戦略投資の着実な実行に加え、ベース事業の構造改革や、社会的価値の創出により、「半導体材料／情報通信材料のグローバルリーダー」としての飛躍を目指す

フォーカス事業

《 市場の成長を捕捉する戦略投資の着実な実行 》

- 能力増強投資案件の着実な立ち上げ
- ひたちなか、北米両新工場への投資実行

① 半導体材料

- 回復が見込まれる半導体ターゲット需要の確実な取り込み
- 既存分野に隣接する新分野への事業展開の推進

② 情報通信材料

- デバイスや通信インフラの高機能化への追随
- EV化が進む車載用途への積極的参入

技術開発・ESG

《 社会的価値・持続的な成長を支える事業の創出 》

- 次世代の収益の柱となる新規事業の探索、事業立ち上げに向けた開発の加速
- サステナブル銅・ビジョンの具現化

ベース事業（基礎材料）

《 資本効率を重視した事業体制への抜本的見直し 》

- 「規模」にとらわれない最適な事業体制への転換推進
- フォーカス事業を支えるレアメタルも含めたサプライチェーンの強化

- 「半導体材料／情報通信材料のグローバルリーダー」たる強靱な財務基盤の構築
- 上場企業として求められるガバナンス体制の整備

3. 今回中計 フォーカス事業戦略

－市場の成長を捕捉する戦略投資の着実な実行－

主要製品の将来需要動向

■ 半導体用ターゲット

半導体製品の数量増加に加えて、多層化に伴う半導体製品1個当たりの使用量増加が見込まれる

■ 圧延銅箔

スマートフォンにおける電解銅箔からの置き換えによる搭載数増加や、ウェアラブルやEV用途の需要拡大が期待される

今回中計における主な取り組み

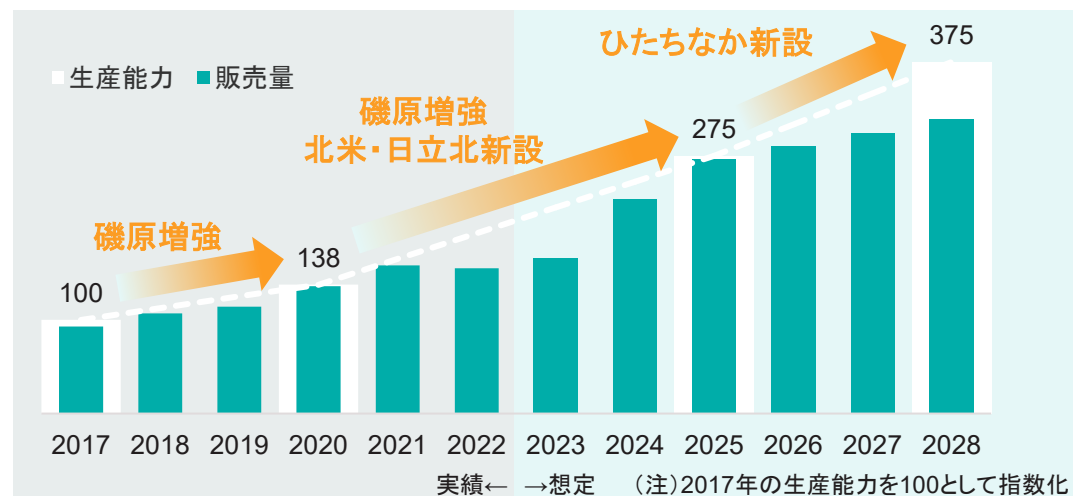
■ 需要の回復・拡大に備えた能力増強

- 既着工案件の着実な立ち上げ
- ひたちなか、北米両新工場への投資実行

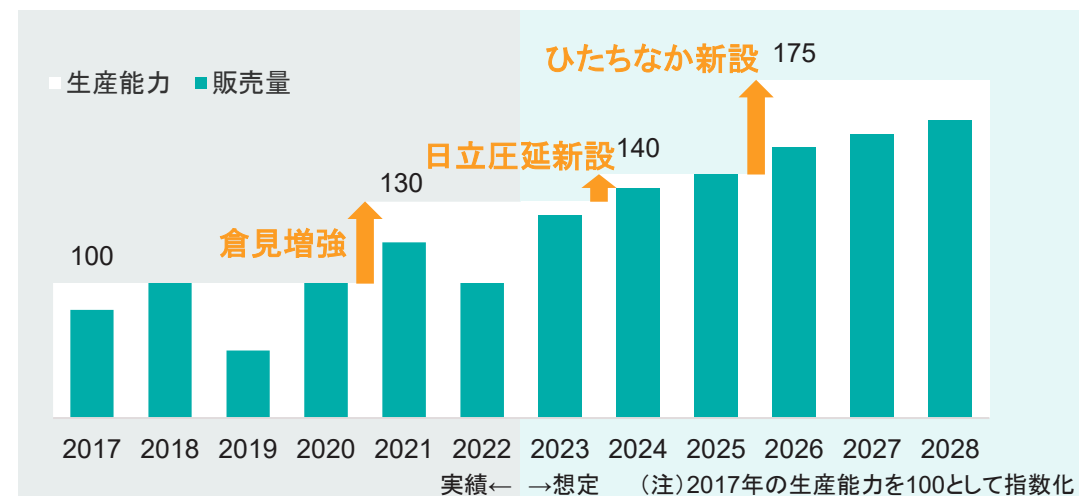
■ 顧客ニーズに応じた開発・量産支援の継続

- 新規用途の早期情報収集、他社に先駆けた製品開発

《 半導体用ターゲット生産見通し 》



《 圧延銅箔生産見通し 》



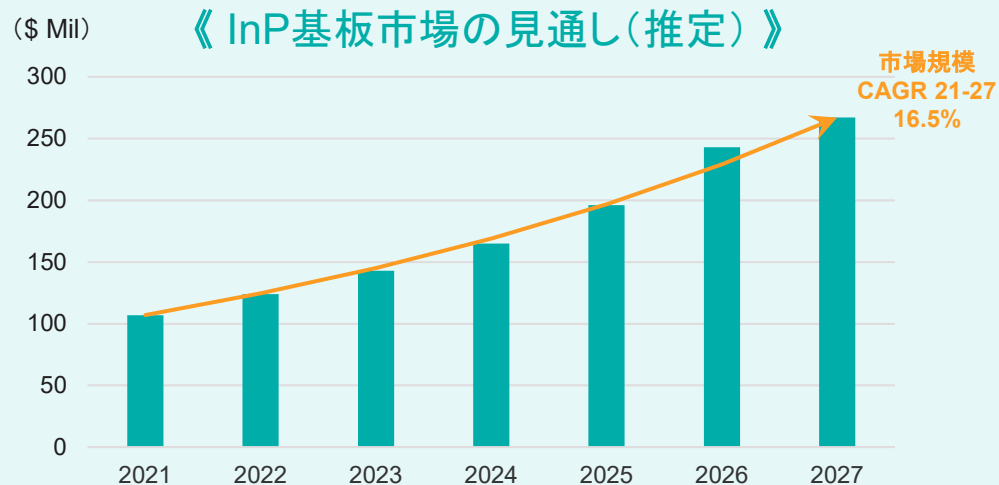
3. 今回中計 フォーカス事業戦略

一次世代の収益の柱となる新規事業の開発

注目分野・製品

- 化合物半導体
- 高機能銅合金
- 金属粉
- CVD用塩化物

結晶材料事業



(出所)市場規模: "YOLE Intelligence:InP 2022 Market and Technology Report"

結晶材料事業 主要製品の需要動向

- データセンターやモバイル通信量の増加により、受発光素子用InP基板の需要は継続的に増大
- スマートフォンやウェアラブル機器に搭載される近赤外線センサー等、InP基板の新たな用途が拡大
- 航空宇宙分野で使用されるCdZnTeベースの赤外線イメージセンサーの大型化
- 産業用・医療用放射線検出用途における、低被爆、高解像度化を実現するCdZnTeベースの半導体検出器の展開

今回中計における主な取り組み

- 結晶材料の事業部化による体制強化 (2025年度移行を目的)
- InP基板生産能力拡大
 - 磯原工場での設備増強、新工場建設検討
- CdZnTe基板大型化、高品質化
- 防衛・メディカル等新規用途の探索・周辺事業への進出
- 新規製品の開発

3. 今回中計 ベース事業戦略

「規模」にとらわれない最適な事業体制を追求し、収益性向上に努めるとともに、サプライチェーンの強化を通じてフォーカス事業の成長を支える体制を構築

銅

資本効率を重視した
操業体制への抜本的な見直し

- ・ 収益性向上・運転資本圧縮等を通じた財務体質の改善
- ・ 最適な生産規模、事業体制への転換

グリーンハイブリッド製錬推進

- ・ リサイクル受入・処理能力の拡大

リサイクル事業の
収益基盤確保

- ・ 調達地域・原料の多様化による増集荷

レアメタル

タンタル・チタン等レアメタルの
資源サプライチェーン確保

- ・ 新規鉱山の探索、投資検討

タンタル・チタン等レアメタルの
資源サプライチェーン確保

- ・ タンタルスクラップの集荷強化



3. 今回中計 生産技術／技術開発戦略

生産技術 これまで培ってきた技術を全社横断的に展開・活用、各箇所の生産プロセスを最適化し、キャッシュフロー改善を目指す

重点取り組み事項

- 生産技術の全社的展開

具体例

- データ解析
- シミュレーション・AI活用

狙い

- 生産プロセス最適化

技術開発 新規事業創出に向け、前回中計期間中に定めた注力領域における開発を加速する

注力領域

キーワード

取り組み内容

次世代半導体材料

CVD原料メーカーとしての存在感向上

CVD原料ラインアップ強化、M&A、アライアンス先選定

熱マネジメント材料

複数放熱部材でのソリューション提供

半導体（パワー、ロジック）でのアプリケーション開拓

結晶・フォトニクス材料

事業部として独立

DC市場でのプレゼンス向上、
メディカル、航空宇宙などの新規用途開拓

ライフサイエンス

参入へ向けた道筋

コア技術を応用したライフサイエンス領域でのテーマ探索、
グループ会社との連携

ESG関連の技術・材料

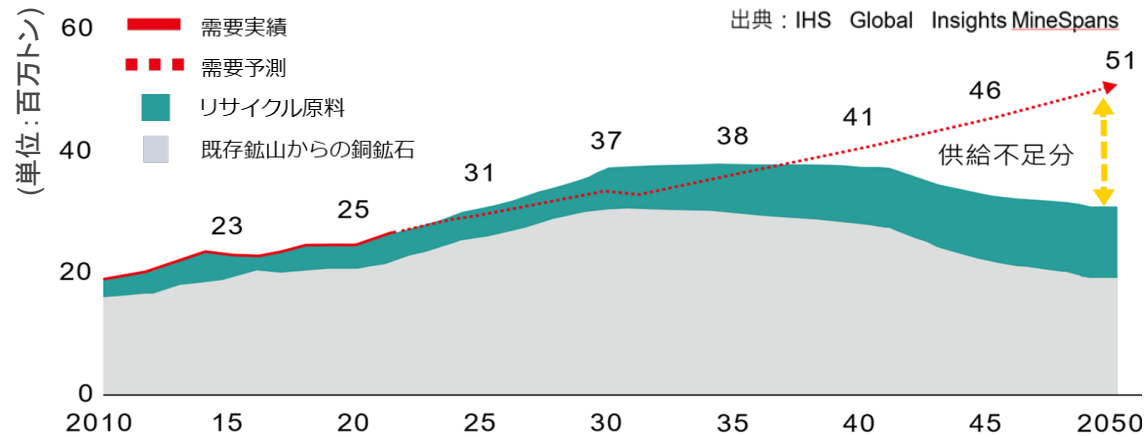
リサイクル、CO2削減、水素

水素製造用触媒開発
LiBリサイクル事業化推進

3. 今回中計 ESG活動(サステナブル銅・ビジョン)

脱炭素インフラやEVの普及に伴い拡大する銅需要を満たすためには、鉱石とリサイクル原料双方の活用が不可欠

銅の将来需給予測



2つの使命の
両立

- 拡大する需要を支える安定供給体制の構築
- ESG(脱炭素や資源循環等)を重視した生産と供給

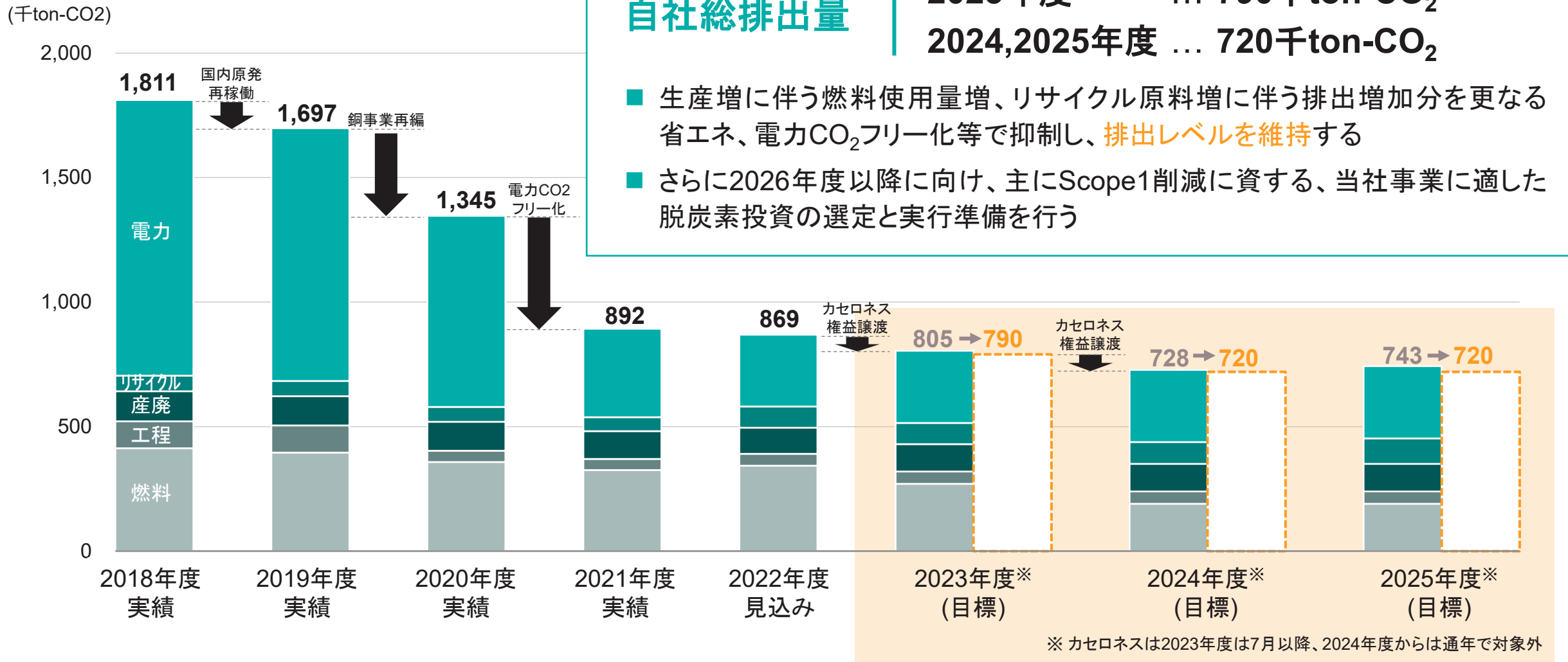
当社が「2つの使命」を果たすため、
現実目線で考えるサステナブルな銅供給を
サステナブル銅・ビジョンとしてステークホルダーへ提示

ビジョン実現に向けた4つの施策

- CFPの削減**
 - 第三者による電気銅のCFP算定
 - 製錬所や鉱石輸送でのCO₂削減
- リサイクル比率の向上**
 - グリーンハイブリッド製錬の進化(2040年リサイクル原料比率50%)
 - リサイクラーとの協業体制確立
- 責任ある調達等の推進**
 - The Copper Markの取得(2022年12月取得済み、佐賀製錬所および日立工場で国内銅製錬初)
- Green Enabling Partnership**
 - 当ビジョンの認知度向上、協働企業の拡大
 - 協働企業と連携した、経済性と透明性のある銅の資源循環、スクラップの増集荷



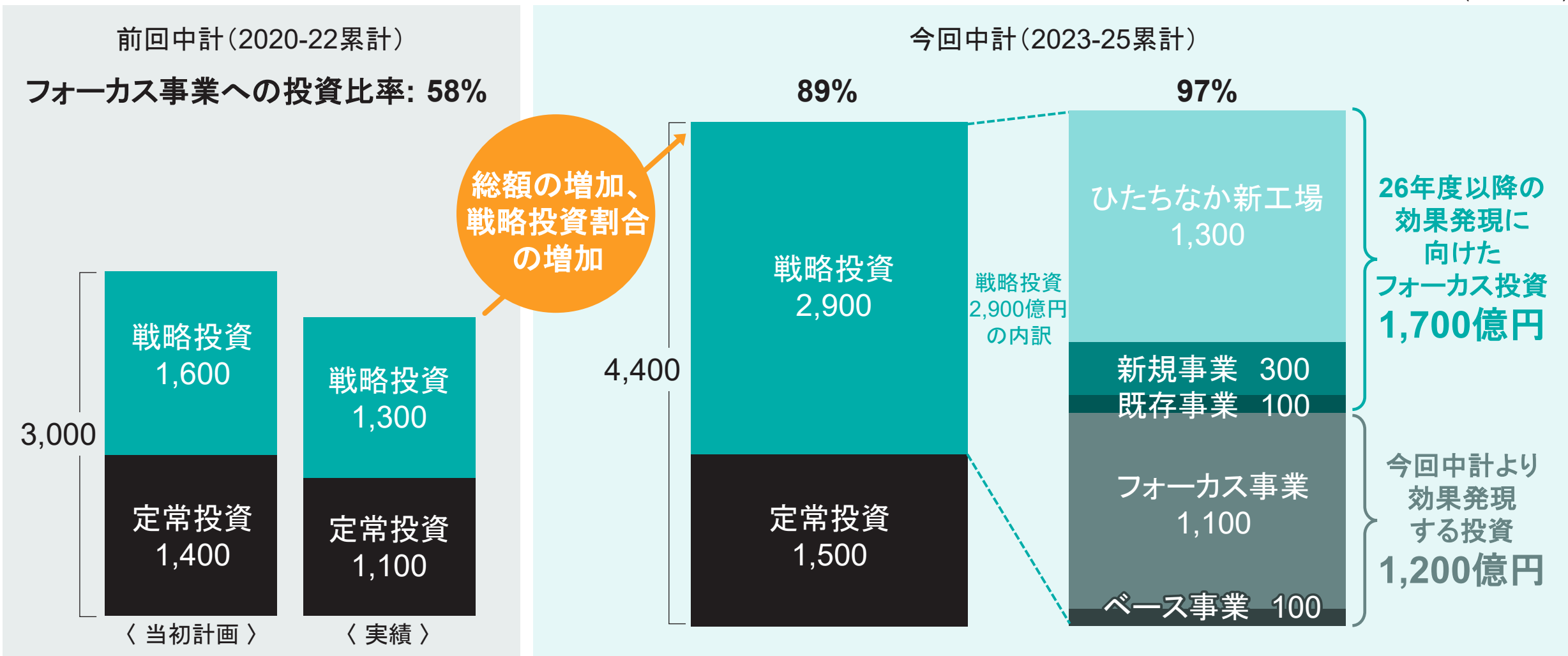
3. 今回中計 ESG活動(脱炭素目標)



3. 今回中計 投資戦略

フォーカス事業の需要増に備えるため、積極的な戦略投資を実行

(単位: 億円)

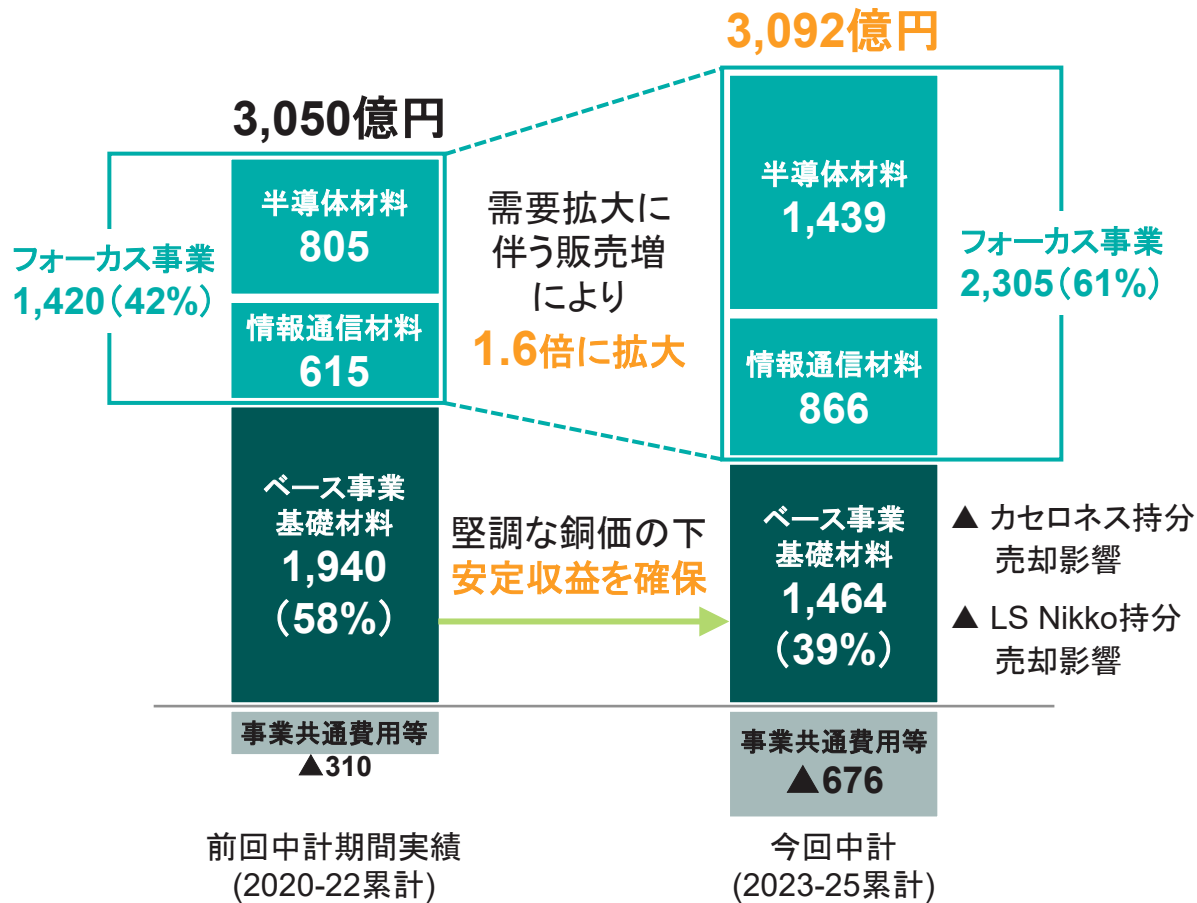


3. 今回中計 収支計画

事業戦略の着実な実行により、収支計画の達成、更なる上積みに取り組む

《 営業利益累計額 》

(単位:億円)
IFRS基準 (在庫影響除き)



収支計画

2022年度から続くエレクトロニクス市場の調整により期初の事業環境は厳しい^(※1)が、回復期以降の需要を取り込むことにより、**前回中計期間以上の累計営業利益を目指す**

半導体材料

生産能力の拡大、サプライチェーンの強化及び差別化の徹底による拡販

情報通信材料

需要増に対応し得る供給体制の構築
差別化製品に特化した拡販活動

基礎材料

「規模」よりも資本効率を追求
リサイクル事業拡大による収益拡大

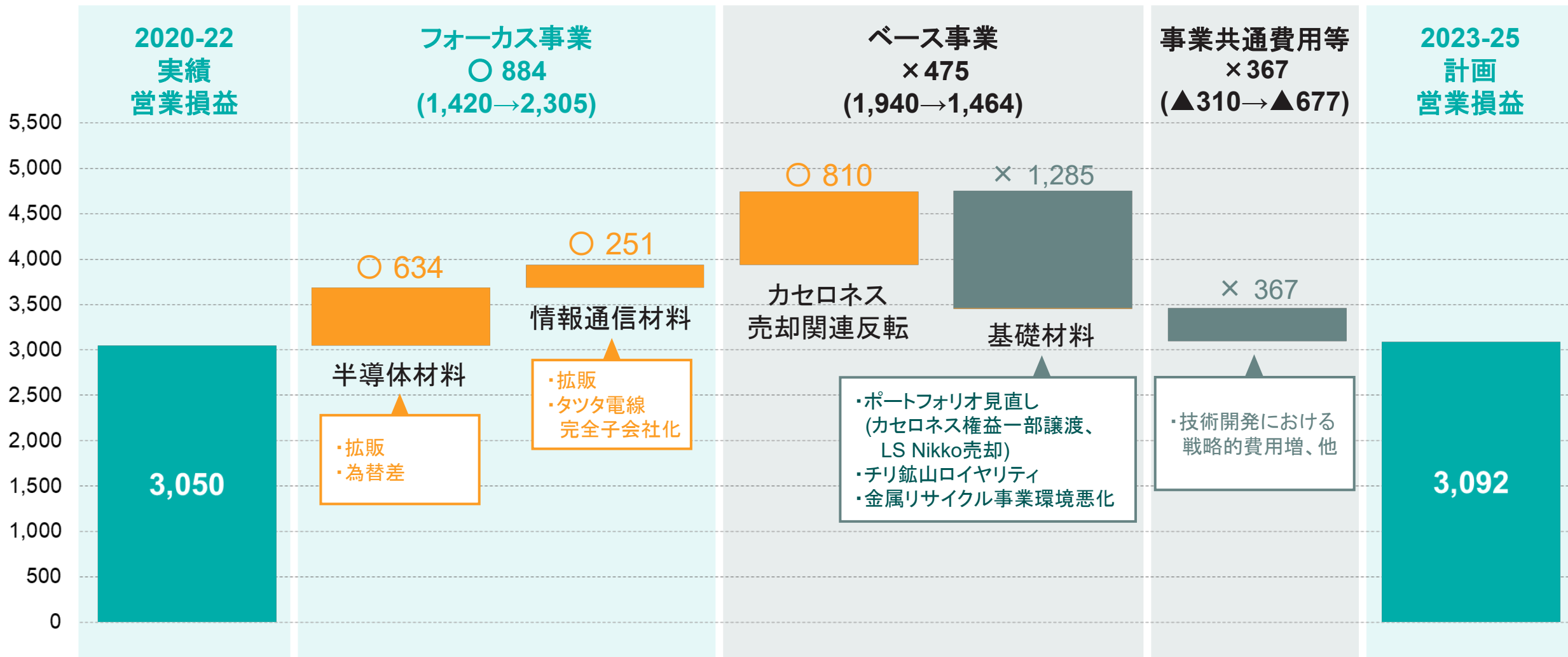
(※1) 金属セグメント2023年度営業利益見込み: 890億円(5/11公表)

注) 銅価、為替の前提についてはP21参照

- 1 長期ビジョンで目指す事業構造イメージ
- 2 2020～2022年度中期経営計画(“前期中計”)振り返り
- 3 2023～2025年度中期経営計画(“今期中計”)について
 - 位置付け
 - 環境認識
 - 基本方針
 - 事業・技術戦略
 - ESG活動
 - 投資戦略
 - 収支計画
- 4 業績について

4. 前回中計 vs 今回中計(累計)増減分析

(単位:億円)



4. 業績について

営業損益

(単位:億円)

	2022年度 実績	2023年度 予算	2024年度 計画	2025年度 計画	2023-25年度 累計
フォーカス事業	564	481	795	1,029	2,305
半導体材料	346	295	491	653	1,439
情報通信材料	218	186	304	376	866
ベース事業(基礎材料)	187	594	401	470	1,464
共通費	▲ 64	▲ 185	▲ 151	▲ 340	▲ 676
営業損益計	687	890	1,045	1,158	3,092

前提条件

		2022年度	2023年度			2024年度		2025年度	
			対22年度	感応度		対22年度		対22年度	
為替レート	円/\$	134.9	130	(-)4.9	±1円→14億円	130	(-)4.9	130	(-)4.9
銅価	¢/lb	386	360	(-)26	±10¢→33億円	360	(-)26	360	(-)26

※変動が営業利益に与える影響額(カセロネス売却関連の為替差損益は除く)

ご注意

本資料は、当社親会社であるENEOSホールディングス株式会社（東証プライム、5020）の中期経営計画の定例公表に際して、当該中期経営計画のうち当社に関連する部分の情報等を提供することを目的としております。

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予測の達成、及び将来の業績を保証するものではありません。

またこれらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行ってくださいますようお願いいたします。

本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

JX金属株式会社



JX 金属株式会社